

☆☆文庫あれこれ☆☆

◇文庫を開いてもう、4ヶ月がたちました。嬉しいことは、すぐにお手伝いして下さる方ができたことです。この近くにお住まいの中西さんと森川さんです。受付や、本の整理（本が痛んだり汚れたりしないためにフィルムコートをする）をさせていただきます。おふたりはまた、たくさんのお友だちを連れてきてくださいました。また、河津の稲本さん、まだ0歳児のママ・沙織さんも時々手伝いにきてくれます。たくさんの方に支えられ、東京から通ってくる私も沙羅の樹文庫も幸せです。◇私はふだん、中学校の朝読の時間におはなしをしています。7クラスある1年生に10分くらいのおはなしを週に1度の割合で順番にします。今年から、知的障害クラスでもはじめました。中学生でも小学校2.3年の感じでと云われていますが、みんな団結力があって、とても楽しそうに聞いてくれます。反対に、健常クラスにひとり、かなり重度の男子がいて、おはなしを聞く体勢にはなかなか出来ません。ひとりで、大きな声をあげたり、動きまわったりしています。ところが不思議なのは、このクラスのほかの生徒が、この子に惑わされることなく、私が語る世界にぐーっと入り込んでくるのです。彼のいる空気を受けとめたうえで、おはなしの世界を楽しんでいるのです。彼らは彼を無視しているのではないのです。彼を彼の世界を引き受けているように思えるのです。はっとさせられます。そして心が暖かくなります。この関係を、誰が教え込んだのでもないような気がするのです。人間が本来持っている自然な愛情。人を思いやるやさしさ、です。◇この秋は、いろいろなところでおはなしを語る機会があり、とても勉強になりそれはそれでとても嬉しいのですが、おはなしを憶えはじめると、本を読む時間がなくなってしまうので、新刊を見逃してしまいます。◇読書好きのみなさん、ぜひこん

な書評が面白かったとか、これを文庫に入れて、とかご意見かせてください。全部購入できるわけではないのですが。（西村）

♥♥イベントのお知らせ♥♥

「大人も子どももクリスマス」

おはなし会

日時：12月17日(日)午後2時～3時

場所：沙羅の樹文庫

参加費：無料

（但し、参加者は、200円程度のプレゼントかプレゼント用200円をお持ちください。プレゼント交換をしましょう！）

★プログラムは、こびととくつや、12の月のおくりもの、ほか★飲み物とお菓子がです。床暖房がありますが、当日の温度にあわせてお寒くない服装でおいでください。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆文庫の時間は土曜日は午後2時～5時

日曜日は午前10時～午後3時

◆毎月日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。いまのところは、午前10:00～10:30です

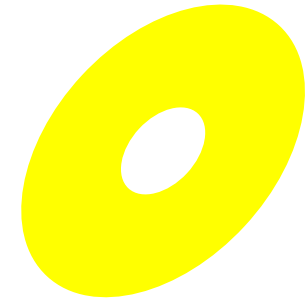
◆12月は、16、17日(第3土日)です。今年の文庫納めです。

日曜日には、クリスマスお楽しみお話会があります。親子で、おじいちゃんおばあちゃんもどうぞ！

◆2007年1月は、20、21(第3土日)。2月も第3土日の17、18日です。

沙羅の樹文庫だより

No.3



みなさんお元気ですか？

風邪など引いていませんか？

空が高くどこまでも青い、よいお天気が続いて、

季節はまもなく晩秋から冬に駆け足！

そして、今年も40日と少し。

体も心も充実した1年の総仕上げの時期です。

それに読書の季節です！

読みたい本をリクエストしてみてください。

(1P)

10月15日(日)のおはなし会 報告

東京・町田市から6人の語り手が参加して下さり、午前は子ども、夜は大人のためのおはなし会が開かれました。NPO まちだ語り手の会の平田さんのレポートです。

新築の文庫には木の香りがただよい、高原の光と風が舞い、すばらしく気持ちいい空間でした。開館時間中はいつも数人のお客様が本を選んだり、読書にふけったり、思い思いの時間を過ごしていらっしゃいました。

<小さなおはなし会>

10:00~10:30 参加:子ども11名、大人7名

- ・手あそび/あたまはてんてん
- ・あなのはなし(ミラン・マラーイク作)
- ・お百姓と鬼(日本の昔話)
- ・手あそび/ひとりのゾウさんくものすに
- ・アナンシと五(ジャマイカの昔話)
- ・ギーギードア(マーガレット・R・マクドナルド再話)

毎月第3日曜に開かれるおはなし会。陽気もいいので、語り手は庭のヒメシャラの木の前に置かれたベンチに座ったり、前に立ったりして、文庫の縁側に座った小さなお客さまにおはなしをしました。おひざにだっこのお子さんも、はじめはちょっと緊張ぎみだった子どもたちもだんだんリラックスして、最後のにぎやかなおはなしには笑い声もはじけました。

<秋の夜長のおはなし会>

19:00~21:00 参加者:大人20名

- ・詩 いっしょに(工藤直子作) 西村
- ・ふしぎなお客(イギリスの昔話) 増田
- ・かしこすぎた大臣(インドの昔話) 丸岡
- ・三枚のお札(日本の昔話) 佐々木

- ・魔法の馬(ロシアの昔話) 増山
- ・お貞の話(小泉八雲作) 西村
- ・年寄り売り(日本の昔話) 佐々木
- ・白いゾウ(インドの昔話) 伊藤
- ・月の光でさらさっしゃい 平田

夜7時からのおはなし会でしたから、大きな懐中電灯で夜道を照らしながら文庫にいらっしゃる方も。窓ごしに見える庭のヒメシャラの木が、昼間とはまた違った存在感ですくくと立っているのが印象的でした。休けい時間にはおいしいお茶やコーヒーとお菓子のサービスも。お話がぎゅぎゅ詰まった2時間でしたが、「おとな向けのお話を聞くのはこれが初めてで良かったです」と喜んでいただけようです。おとな向け、しかも夜のおはなし会ということで、語り手はそれぞれ衣裳にも気を配り、おはなしの雰囲気をもり上げました。そして明と暗を際立たせる「夜」が、お話にくっきりとした輪郭を与えてくれたように思います。(平田えり子)

~~~~~ ♪♪♪♪♪ ~~~~~

#### ★会員から会員へ・おすすめの一冊★

(文庫の棚の本をご紹介します)

#### 『わたしのワンピース』(にしまきかやこ作/こぐま社刊)

この絵本と出会うたびに幼稚園を退職する最後のクラス3歳児を受け持った時のことを思い出します。3人姉妹の末っ子だった彼女は、上のお姉さんたちに張り合っておしゃれをすることが大好きでした。

(3P)

幼稚園に登園するとまっ先に本棚のところに駆けよっては、『わたしのワンピース』を1ページ1ページ楽しそうに捲っては微笑んでいました。

白い布でうさぎがワンピースを作る。お花畑を歩くと花模様に、雨が降れば水玉模様に、草の中を歩け

ば草の実のように・・・と、いろいろ変わり美しい夢の世界へと遊ばせてくれます。

彼女の家に家庭訪問に行った時のことでした。私がいる間中、まるで絵本のなかのうさぎになったように次々と自分のお気に入りの洋服を着ては現れ、「先生、このワンピースわたしににあうかしら」と、と問いかけ、楽しませてくれました。

リズムカルなことばとてもシンプルな絵ですが、時代を経ても子どもたちに親しまれる人気の一冊かと思えます。(稲本温代)

.....

#### 『二つの度の終わりに』(エイダン・チェンバース著/原田勝訳 徳間書店刊)

1995年、17歳のイギリス人青年ジェイコブは、おばあさんの代理でオランダ人女性ヘルトラウに招かれて、アムステルダムを訪れます。彼はそこで、第二次世界大戦中にオランダ戦線でドイツ軍と戦って亡くなった、同じ名前の祖父ジェイコブの青春を辿ることになります。

いきなり引たくりにあい(何故そうなったか?)、それをフォローする親切な女性(その存在感はきわめて衝撃的)や、ゲイの少年、大学生のダーンとその母、レンブラントの絵、式典で祖父の墓に花を供えてくれた姉弟、運河.... 何ひとつ無駄なく伏線がはられていきます。

この本は「ジェイコブのアムステルダムの日々」と「50年前を振り返るヘルトラウの手記」を交互に示すことで緊張感が高まり、互

(4P)